

2021年11月7日 全聖徒主日礼拝説教

「人を蘇らせる救い主」(ヨハネ11章32～44節)

○ヨハネ11章32～44節について

救い主イエスが、病に伏せていたラザロのところへ行かれたとき、「(彼は)墓に葬られて既に四日も たっていた」(17節)。キリストも、ラザロの姉妹マリアとマルタの悲しみに寄り添われ「涙を流された」(35節)が、墓にいるラザロを死から蘇らせる《みわざ》を起こされ、姉妹たちを〈死の苦しみ〉から救われた。

「(イエスが)ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。」(44節)

※この後、神の子イエスは十字架につけられて死なれたが、その三日目に死からよみがえられ、今も生きておられる。キリストを信じる者も、ラザロのように死の向こう側からその名を呼ばれ、天の御国で蘇らされて、永遠の命を得る。

今日のみことば：ヨハネ11章40節

「イエスは、『もし^{しん}信じるなら、神の^{かみ}栄光^{えいこう}が^み見られると、^い言っておいた ではないか』と ^い言われた。」

救い主イエスの語られた《神の栄光》とは、ラザロの《よみがえり》のことであり、キリストを信じる者も、自らの死と蘇りによって、神の栄光を受けるようになる。

「イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。』」(ヨハネ11章25節)